

さみしい夜の句会報 第112号 (2023.4.9-2023.4.16)

- ◆ 参加者：とし、石原とつき、奥かすみ、宮坂愛哲、菊池洋勝、しまねこくん、岩瀬日、saki、田中タニエル、太代祐一、daisi、何となく短歌さー、萩原アオイ、層乃ハコ、こたろう、風ちひろ、仁音(Airone)、電車侍、brutopia、突波、上崎、とるぼとる、西脇祥貴、Nichtraucherherer(元さん、此糸むら咲、東つろ、佐竹紫円、future、西沢葉火、おかもとかも、日下 昊、Bon Slippy(モンモ)、yellow、みさきゆう、mine、水の眠り、落ちる星々、石川聡、雪夜替星、まめのすけ、消々、せば、Ryu sen、花野玖、ゆりのはな、星野響、雷(らい)、森砂季、はゆき咲くら、ちゆんすけ、みおうたかみ、ぱこ、岡村知昭、お気楽草紙、おおこえ、涼、まつりべきん、鴨川ねぎ、あやめ、涼閑、しののめ、汐音、葉月、たろりすむ、輪井ゆう、Tatsuo Kanase、和泉明月子、かのん、Take、水戸充希、crazy lover、一葉らむ、すずしろゆき、しろうも、秋鹿町、ほたる、まこと、むーみんママ、春町、Kibibō、くわとろプロジェクト、小沢史、けすけす、戸部紅脣、藤井臯、影薄き直美、白石ボビー、カゲキ・ちゃげぞう、式定住佳、星見冬夜、山田真佐明、大原鮎美、徳道かづみ、kemo、カミハテ、月波写生(九六名)

◆7・7・5・7・5 (川柳・俳句)

吊り革のおにぎり型とケーキ型 上崎
ババロアの爆発くらい泣いてみた 消々
待たぬ人ばかり来るなり金盞花 花野玖
あさつてを示す3色ボールペン 上崎
秋のアがあなたになつて歩き出す 春町
奥歯からキシキシ聞こえ木の芽和え 水の眠り
シンデレラゾーンに水のトラブル Ryu sen
ハイジ派と反ハイジ派の抜歯跡 秋鹿町

一つだけ空いた升目に春の馬　しまねこくん
幸せに暮らしてますかチューリップ　しまねこくん
素手で取る栄螺の勇姿真似したる　菊池洋勝
松明として受け取ったいちごパフェ　上崎
レガッタが刺さったままの向こう岸　しまねこくん
ゆく春や猫が嫌ひと言ひ出せず　お気楽草紙
たんぼぼや隔世遺伝なら禿げる　hyutoppa
断りのメールに深夜まで悩む　みおうたかふみ
お台場の電波弱々しいダイバーシテイ　石川聡
B4のツバメノートを羽にした　Ryu_sen
春の夜をベトナム人に混じり食う　せば
はなみずき点や線にはならぬもの　屑乃ハコ
茶番には明るいピンクを貼つとして　おかもとも
不死鳥だけ食べていない　西沢葉火
十五夜に充分熱い中華鍋　西沢葉火
走馬燈のエンドロールに君の名前　宮坂変哲
自分史のさいはてにこたつを置こう　西脇祥貴
……なぜかタグが切れますね……。　西脇祥貴
君の住む深海へ宛てた手紙　まこと

JKのむずかりやまぬ目借り時　岩瀬百
いとこ取りの夢みては我に返る日常　sata
水温むのでどいてください　太代祐一
通学用鞆につける助詞選ぶ　さー
真夜中に空瞬いて更年期女子　仁音
蒲公英の　綿毛を飛ばす　微風かな　電車侍
甘やかな声を掬って夜のパフェ　東こころ
ラムネ包む青いセロハンだけ静電気が強め　日下昊
アシンメトリーでバランスをとる　落ちる星々
空溢る涙、五月雨流れ星　雪夜彗星
アラスカの木彫りの鮭が寝返った　まめのすけ

鞦韆を揺らすシニファイエシニファイアン 星野響

描かれてない絵のある絵をみている 雷

スイカも玉子になりたい 森砂季

わたくしを膨らませてく春の雨 ちゅんすけ

本日の彦左衛門は亀を撒く 岡村知昭

覗いたら本音が見える顕微鏡 まつりぺきん

指切りの指を嘗めずる蝸牛 あやめ

自分史を月の明かりの下で書く 涼閑

バネひとつ欠けたと知らぬ身で廻る 輪井ゆう

助手席の孤独地獄に右フック Tatsuo Kanase

鍵を閉め心も閉じて泣かないように 和泉明月子

通勤が 花のリレーの 観戦に かのん

不協和音小鳥囀る程でよい crazy lover

あんぱんの空洞ほどの春愁ひ すぐしろゆき

笑ったり怒ったりする母の遺影 ほたる

ダライラマ所詮貴方も人間動物でしたね むくみんママ

羊水に落とすバスボム 小沢史

寝台の紫雲英になつているところ けすけす

春暁の違法ドラマに亡き怪優 戸部紅層

新学期枇杷の周りでふて寝する 藤井皐

新横浜過ぎたら俺を忘れてよ カゲキ・ちやけぞう

愚痴愚痴とダウンをとってひとりきり 山田真佐明

とんがってひとり金平糖のまま 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

ウインクが苦手な僕とスキップが苦手な君で奏でる和音
たろりずむ

記憶より缶の中身が減っていてココアと呼べぬ薄いのみも
の 佐竹紫円

雨の都会は嬉しい世界戸川純から逃げられぬ まめのすけ

センセイもセンパイもガチャピンもいなくても私は私で生きる春 さー

靴底で人差し指が痛いのに「なんか中指…」と誤解する恋屑乃ハコ

なるだろう僕もいつしか更新の途絶えたブログ跡地のように daist

アナグラムな果実をゆったりの唾液の静かな 石原とつき

春雷は冬の名残の怒る雲気迷う神よ道を外すな とし

うたた寝の君の吐息を取りこんで踊るシナプスシアワセ放つ 奥かすみ

雪上の凍てつく羽音聞ゆるは死に際按じる狩人の業 田中ダニエル

欠けている所も含めて好きだった過去形にすると苦しいほどに 何となく短歌

檻の外 いつまで待っても人間にならないチンパンジーを見ている 萩原アオイ

風が鳴るエフエムの音消した朝昨日の憂い知つてのことかこたろう

雨の日のキッズコーナー大混雑ふと見上げれば綺麗なくす玉 凧ちひろ

あなたから続いてきてた遺伝子も断ち切つたからもう大丈夫 とるばどーる

腹痛のときに脂っこいものがほしくなるのも希死念慮かな Nichtraucherchen

雨に濡れ孤独の街を歩いてる傘に紛れて行く先もなく 元さん

ふくらんだ蕾のまま腐り落つ愛でるもの無き吾の花盛り此糸むら咲

フクロウの声聞きたくて身を寄せて肌で感じる孤独の音色 future

朽ちるならせめて共にと誓いあい若葉芽吹いて幾千の華
アルト

届け！届け！届け！ありがとうも、大好きも、ごめんねも。

天(てん)へ！ Yellow

カレンダーめくれずにいるこの部屋に君の誕生日は来ない
まま みさきゆう

ひとりではさみしいだろうと憑いてきた 孤独になれたはず
だっただのに mine

保障なき世の片隅で生きている非正規の吾と戦禍のキミと
ゆりのはなこ

しばらくは来れないよって言ったのにまた会いたくてま
だ会いたくて はゆさく

あなたから涙の訳を尋ねられ隠さず言えば楽になるのに
ばさ

苛立ちを隠しきれない君の手が鳴らしてた音だけ覚えてる
おおこえ

黄砂舞う晴れ渡る空やや霞む遠くの景色春の装い 涼

サイコロの六が出たなら極楽へ四が出たなら畜生界へ 鴨

川ねぎ

「霜焼けを湯につけるよう優しさに包まれ沁み入る甘痒い
熱」 しののめ

桜雨 流してくれるか 思い出を涙とともに 海の果てまで

汐音 葉月

僕は右君は左に月を見て落ち合う場所まであともう少し

Take

キョロ缶もフリマで買えるこの時代郷愁誘うエンゼル売買

水戸 充希

マリトッツォおつてつまりちよつとまいっっちゃってる。パトリ

オット 二葉らむ

四手辛夷 椿 立ち入り禁止のロープ主人不在の春惜しむ
しるとも

真夜中にからすよ君はなぜ鳴くの人の心を見透かすように
KRL11b

夜も更けて今宵も交わすやり取りは毎度毎度の言葉の遊び
影薄き直美

アネモネは鰐が千切れるように喉咲かせて塔を飛び越えた
んだ 白石ポピー

枕詞を置き去りに春の夜風の流るるままに 弑定住佳
たおやかな外は春でも保留音ミスターサマータイムが掛か
る 星見冬夜

◆詩

君と出会って凍っていた心が溶けたよ

君と話せて溶けた心が暖かくなったよ

君の笑顔で暖かい心が熱くなったよ

君へまっすぐ伝えた熱い心

届かなかった熱い心

でも後悔なんてしていない

今もいちばん大切なのは君だから(くわとろプロジェクト)

◆作品評から

じゃんけんと云われて思い出せるのは池田澄子の句なクラ

スター Nichtraucherchen

く池田澄子のおかけて負けても勝ってもじゃんけんは詠
めなくなってしまう。そういう曠野のような場所が詩歌

にはいくつもある。(月波与生)

なけなしのテーマソングを川へ流す おかもとかも

くとても残念なことである。しばらくは存在が恥ずかしい。
始めるための新しいソングが必要だ。(月波与生)

幸せに暮らしてますかチューリップ　しまねこくん
　　～絶唱なり　（大原鮎美）

北の地で燃えるエロスとタナトスを封印できぬ亀甲縛り
水の眠り

～これも「亀甲縛り」に立ち止まるが「エロスとタナトス」「封印」と周到に言葉を置いている。同時に提出されて面白い現象だなあとながめる。（月波与生）

傘ささず雨粒の仮性包茎　秋鹿町

～「仮性包茎」に立ち止まるが上手く紛れ込ませている。
「ささず」「雨粒」と周到な言葉たち。（月波与生）

自分史のさいはてにこたつを置こう　西脇祥貴

～こたつも五十路になると長時間はキツいんだよね。朔太郎的な世界の寝台を探そうか。（Tatsuo Kanase）

7

気の抜けたウイルキンソンを口移すあなたのむこうのあなたの遺影　此糸むら咲

～「気の抜けたウイルキンソン」は水なので「あなた」は亡くなっているのかな。とすれば「あなたのむこうあなたの遺影」とした方落ち着く。（月波与生）

またいつか小雨のなかで逢いましょう　蔭一郎

～昔とみしい夜の句会　へ開始当初より投句されていた蔭一郎さんは病氣療養のためしばらくお休みするとのことです。一日も早いご回復をお祈りいたします。小雨の中でまたお逢いしましょう。（月波与生）

十五夜に充分熱い中華鍋 西沢葉火

〜何を炒めるのか？とワクワクします。時は満ちて、いざ調理開始！ジュワツと一際高らかな音が聞こえます。(徳道かづみ)

檻の外 いつまで待っても人間にならないチンパンジーを見ている 萩原 アオイ

〜深く、痛い。アオイさんのツイート全部見てますが、これ好きです。(Memo)

アナグラムな果実をゆつたり唾液の静かな 石原とつき
〜アナグラムな果実、

という言葉がもう良すぎるな……！(カミハテ)

きみがいた故郷が香るこぎん刺しの花つこ挟む夜明けの本に みさきゆう

〜こぎん刺しは地元青森県津軽地方に伝わる伝統的な刺繍。本に挿むには少し厚みがありますが葉としている人もいるのかも。「津軽さこいへ」かな (月波与生)

繰り上がるロケット鉛筆新学期 さー

〜懐かしい「ロケット鉛筆」まだあるのかとAmazonを見たらカラフルになってすっかり生き延びていました。そんな古くて新しい新学期。(月波与生)

ルービックキューブ六面揃えたらバラバラにして野生に帰そ 春町

〜「そこに着地したか」って感じです。ルービックキューブは六面揃ってこそ商品価値があるとも言え、揃っていないからこそ玩具としての価値があります。(月波与生)

四股名ですかと問えば猫の縄張り 秋鹿町

く隣の白猫は町内会長らしく早朝の見回りを欠かさない。
真冬でも雪の上に足跡が付いていて感心する。時々新入り
猫が挨拶に来ていたりして人間界と変わらんなぁーと眺め
ている。(月波与生)